

小杉山円満寺 令和三年 秋彼岸号

寺だより

新庄市五日町五九一四

TEL 二二一〇四三三

Fax 二二一〇一六六

発行日令和三年九月吉日

発行人山尾瑛紀

お彼岸と

お墓参り？

お彼岸は、それぞれ春分の日と秋分の日を中日として、前後二日をあわせた七日間をいいます。中日には太陽が真東から真西に沈み、昼と夜の長さが同じになることから、日本では、お釈迦様が説かれた中道（偏らない考え方）を表す日、あの世（彼岸）とこの世（此岸）が一番近く日などと言ひ伝えられています。

「彼岸」と「此岸」、この兩岸の關係は本来、仏教の修行をして、此岸（私たちの住む世界）から、煩惱の先にある彼岸（悟りの世界）へ渡ることを意味していました。

この悟りの世界へ渡るために行う六つの修



行を「六波羅蜜」といいます。この波羅蜜は古いインドの言葉でパーラーミターといい、「到彼岸」と訳されます。

私たちにとっては「彼岸」を亡き人やご先祖様がいる世界、「此岸」を私たちが住む世界ととらえ、私たちの此岸から、彼岸にいらっしやる亡き人やご先祖様を供養することが、六波羅蜜の実践にはかなりません。

開山四〇〇年

当山は、一六二四年（寛永元年）、初代藩主戸沢政盛公の叔父甚盛上人によって開山されました。

以来法灯四百年。二〇二四年（令和六年）に、開山四百年という節目を迎えます。それに当たり、お祝いの記念行事を行いたいと考えております。



- ・ お祝い法要
- ・ 稚児行列
- ・ 修復の終えた本尊不動明王の開眼供養
- ・ 雷神様の開眼供養

などを考えておりますが、壇信徒のみならず、まとも相談しながら決めていきたいと思えます。どうぞご意見をお聞かせください。また、その節は、お力添えをお願いいたします。

本尊不動明王、戻る

昨年七月に修復に出していた本尊不動明王が、この八月に、一年ぶりに帰ってきました。

火災に遭ってやけどを負ったようになっていたお不動様が、クリーニングされ、補修され、きれいなお姿になって戻ってきました。

目は玉眼、澄んだ表情です。総髪もきれいに整えられ、左手に持つけん索（つな）もすっかりしたものになりました。

台座の花の彫り物、「これは見事なもの！」と修復師の方の言葉です。彫られた年代は、室町から江戸初期ということですが。

火災に遭いながらも難を逃れて今、ここにあるお不動様。これからも私たちを守って導いていってください。さることと思います。

仏像修復者は若いふたり。東京芸術大学を出た方々です。茨城県神栖市に工房を構えています。

今回もう一体、持って帰っていただきました。江戸時代に火災に遭ったとき、びっしりタニシがくっついて守られていたと伝わる、左足を下ろした姿のお不動様です。

来年の夏に戻ってきます。



これから何回かに分けて、真言宗の教えの特色を、弘法大師が示した言葉をもとに紹介していきます。

その一 「即身成仏」

真言宗の最も大きな特色は「即身成仏」です。「この身このまま、この世において成仏する」「いな「すでに成仏している」と説くことです。



ここで言う「成仏」とは、悟り・安らぎの境地を得ることです。弘法大師は、宇宙の真理のすがたを、大日如来を中心とする曼荼羅に表しました。私たちの命は父母、祖父母、その前・・・とたどっていくと、幾千、幾万の命とつながります。ついには地球いや、宇宙と繋がります。ですから、わたしたちは生まれながらにして身の内に仏様がいるのです。手を合わせ、経や真言を唱え、心に仏さまを感じさえすれば、成仏できると説きます。

お勧め

◇写経をしてみませんか

写経は一字書くたびに一体の仏さまを刻むことであるといえます。私たちが本来持っている仏様の心、安らかなる心を取り戻すとともに、仏様の教えを体感する修行です。亡くなった方の供養や祈願のために書いてみませんか。

- 毎月十七日 午前十時・午後一時
 - 本堂で
 - 主な流れ 読経・般若心経の薄書きを筆ペンでなぞる・納経
 - 納経料 千円
 - 所要時間 約一時間十五分
 - お茶タイム 納経した後三十分位
 - 記念品の進呈 参加回数五回毎に
- ※用具・予約は不要です。



境内スポット

バラにカエル

分かりますか？バラの花の上にカエルがいるのが。

玄閑脇にバラが植えてあります。そのバラの花の上にいるのです。花びらの間に潜りこむようにしているカエルもいます。



ピンクの花にカエルの黄緑色がよく映えます。カラー写真でないのがちよつと残念です。

あつちの花にも、こつちの花にも、花が咲いている期間中、ずつといるのです。バラの香りで癒されているのでしょうか。

この光景を見ていて、『おやゆび姫』のお話を思い出しました。チューリップの花から生まれた小さなお姫様がヒキガエルからさらわれてしまうというお話です。

お寺においでの際は、ちよつとのぞいてみてください。

六波羅蜜とは

- 布施 ふせ・・・命をはぐくみ施しをすること
- 持戒 じかい・・・身を浄め教えを守る
- 忍辱 にんじく・・・厳しさに耐え忍ぶ
- 精進 しょうじん・・・弛まず励む
- 禅定 ぜんじょう・・・心を落ち着かせる
- 智慧 ちえ・・・正しい心を持つ